

活躍する防犯設備士 第19回

防犯設備士・総合防犯設備士資格取得での夢の実現

総合防犯設備士 第08-0250号
株式会社日本総合防犯 代表取締役

鳥原 真利子



総合防犯設備士事務所 株式会社日本総合防犯 鳥原 真利子です。会社の業務は防犯設備の設計施工・維持管理及び販売、セキュリティに関するコンサルタント業、総合的セキュリティ対策に関する業務・防犯に関する審査及び監査を行っています。取扱商品はセキュリティシステム・防犯カメラ・出入管理システム・防犯フィルム・威嚇照明・テレビドアホン等です

私は平成16年に防犯設備士資格試験を受け、その時の防犯設備士の資格試験の為のセミナーのアンケートの中に確か、「講師になる気はありますか?」という項目があり、その項目を見たとき、「私が講師になる?...」私の人生の中で、講師を務めるという事は考えたこともなく、「私が講師?...」と思いつつも講師になれるのかしらん?なれるのなら講師なるものをやってみたいな、と思ったことを思い出します。防犯設備士の資格もないときに、思えば...その時の思いが、後々の私の人生を左右することになりました。平成16年7月、無事に防犯設備士資格試験に合格し、合格するとすぐに東金警察署に出向き、「防犯設備士の資格があります。何かお手伝いできることはありませんか。」と挨拶にいきました。しばらくして東金警察署よりセミナーの依頼を受けました。私の人生初めての経験です。セミナー講師のデビューでした。

その後、平成17年7月に千葉県防犯設備士協会の立ち上げで発起人として参加させて頂き、平成18年4月千葉県防犯設備士協会設立、同時に千葉県防犯設備士協会の事務局長となり忙しい日々がはじまりました。事務局長の傍ら千葉県警・千葉県防犯協会・千葉市の防犯アドバイザーとして、千葉県内の各所で防犯セミナーの講師として駆け回ることになり、防犯に関するハード面はもちろんのこと、ソフト面はセミナーに参加したりして勉強を重ねました。1年間で30回ぐらいのセミナーをやったのではないかと思います。しかしこの時期に本当に防犯に関する勉強が出来たこと、アドバイザーとして講習会が出来たことが、総合防犯設備士受験に私を向かわせたと思います。総合防犯設備士受験は非常に難しいと思っていましたので、受験はあきらめっていました。(実は、防犯設備士に合格した年はやる気満々で、総合の受験資格はありませんでしたが、3年後の受験をめざすつもりで大阪まで行き、総合防犯設備士とはどんな勉強をすれば良いのかと思い、セミナーだけ参加しました。その結果、「無理!」と思ってしまった経緯があります。)

私はセミナーの中で、受講者の皆様に地域協会の活動と防犯設備士の紹介をします。そして「防犯設備士・総合防犯設備士をご存知ですか?」と問いかけてみましたが、「知りませんでした。今日初めて知りました。」こんな返事が多く少しがっかりしました。それと「皆様は防犯対策を考えた時どこに相談されますか?」とも聞いてみました。すると、「どこかしら?」との返事それからです。防犯設備の相談所がない!防犯設備士の知名度を挙げたい!挙げなければ!と切に思うようになりました。住宅を建てる時に設計事務所に相談するように、防犯対策を考える時には防犯設備士・総合防犯設備士に相談をする。そんな相談のできる窓口の会社、総合防犯設備士事務所の設立を思い立ち、総合防犯設備士の資格を取る為猛勉強しました。



アドバイザー講師の為の勉強のお陰もあり総合防犯の勉強も少しは進んでいたと思いますが、試験にも合格し、早速、平成21年2月総合防犯設備士事務所『株式会社日本総合防犯』を設立しました。防犯対策の相談窓口になればと思います。防犯設備対策のプロフェッショナルとして安心して任せられる総合防犯事務所として、大きな施設やマンション・会社だけでなく個人の方たちも、防犯対策を考えるときは総合防犯設備士事務所へ。また総合防犯設備士の資格をお持ちの方は、どしどし総合防犯設備士事務所を設立し全国で活躍していただきたいと思っています。日本全国何処にでも総合防犯設備士事務所があり、信頼できる防犯の設備を任せいただけるよう頑張っていきたいと思っております。

私の講習会の最後で必ず話すことがあります。「個々の家の防犯対策はそれぞれに自分の家にあった防犯対策をする事が大事です。」ということと、「まちづくり防犯で一番大事なことは、地域のコミュニティづくりです。」ということ、近所の人々が声を掛け合い、地域の子ども達を見守る。今盛んに防犯パトロールも行なわれています。パトロールに参加できる方は参加していただき、参加できない方は1日に5分・10分でもいいので、家の前で通りを見ていただきたいとお願いします。

私の提案ですが、日本全国で〔1日5分運動として自分の家の通りを見てもらおう〕運動です。これは私の会社のすぐ近くの方が1日に何回も外でタバコを吸っていました。(その方に「いつも通りを見ていて下さるので、いい防犯になっています。」と話したら外でのタバコの回数は減った気がします。) その人からのヒントです。ああやって通りを眺めていたら犯罪企図者は嫌だろう、何せ犯罪を目論む人は人の目を嫌います。

また、最近問題になっている煩音問題解決の為にもコミュニティが大事だと言われています。煩音に感じるのは、近所に住んでいても誰かわからない。昔から公園の横に住んでいる人が、昔は公園で遊ぶ子どもの声が気にならなかった。しかし最近はうるさく感じる。なぜなら何処の子かわからないし親も知らない。つまりコミュニケーション不足のせいです。最近うまくコミュニケーションがとれている例として、公園で遊ぶ時に親たちが、お知らせ〔何時から何時まで野球をします。責任者は誰です等〕を持って近所をまわることによって近所の人々も安心し、公園で遊ぶ子どもや親に話しかけられます。

昔は思いやりにあふれたこんな町があたりまえだったと思います。いつも誰かしら外に大人がいて、子どもたちを見ている。子どもたちは良く見知った顔の近所の大人になんでも話しかけ、寂しさや孤独を感じない、そんな環境で子ども達には育ってほしいと思います。

高齢化社会の防犯設備士

行政書士鈴木智士事務所 行政書士 鈴木 智士



私が防犯設備士になりましたのは2004年のことです。

後日に、埼玉県防犯設備士協会の初回メンバーになった折りに、仲間の会員から「資格マニアは何処にでも居る」と揶揄されましたが、そんな悠長な背景で資格を取ったのではないです。

実は、2002年8月に結婚して住み始めた伊奈町の家が、なんと過去3回も侵入盗の被害に遭っていて、非常に物騒な状況だったのです。敷地は1千坪と広大ですが、敷地の大半は鬱蒼とした樹木が生い茂り、700m²弱の宅地を四方取り囲むような状況でした。敷地内は野生の雉や狸が跋扈し、ハクビシンが巣を作り、敷地の至る所で土竜が地面を掘り返し、少しじっとしていると藪蚊が大量に襲ってくるような、手が付けられない状態だったのです。

その上、敷地の外周の3辺は大谷石の高い塀で取り囲み、門扉も完全遮蔽型で、外部からの視認性は全く無く、一端敷地に入り込まれてしまうと、もう泥棒のやりたい放題といった様子でした。

過去3回は運良く犯人と接触することなく、窓ガラスを破られて金品を盗まれただけで済みましたが、今後はどうなるか分かったものではありません。

2007年1月には近隣の建設会社で、事務所の留守番をしていた奥様が白昼に強盗殺人の被害に遭う未解決事件も発生しました。

住み始めた当時から、防犯の知識がゼロの私でも、これは怖い状況だという判別は付きましたから、何とか自力で備えるにはどうしたら良いかと情報を集め始めたのです。

先ず、埼玉県主宰の防犯の講習会に出向き、自宅の無防備さと怖さを再認識しました。面の分析をしてみると、地域的には工業団地の周辺にあり、日中でも付近の道端に不審車が何台も停まっていたり、見知らぬ工事車両が絶えず往来する地域でしたので、外部から不審者が地域に入り込んでも、雑然とした風景に溶け込んでしまい判別できない状況でした。

焦る気持ちの中で、2回目の申し込みで、ようやく防犯設備士の受験が出来ましたが、切羽詰まった状況で臨んだので、どの講義も理解が出来て試験はかなりの高得点だったと思います。

講義で得た知識を基に、当時事務所を構えていた戸田市や自宅のある伊奈町の街並、マンションや戸建て住宅を見る目が違ってきました。過去、駐車場を専門にした建設会社で設計施工をした経験があり、土地や建築物に関する知識はある程度はありました。

それでも、不足していた一般住宅の知識を得るために、各地の住宅展示場に出向いては、営業マンや設計士に質問をぶつけ、実際の住宅メーカーが防犯性能について、どのようなレベルで営業をしているのかを確認し、既築物件を見学させて貰い、とにかく時間を掛けて随分と勉強をしました。

更に、平行して機械警備業務管理者の試験を受講して資格を取る中で、自宅に防犯設備を整える自主防犯の重要性を強く認識していったのです。



今も継続して行っていることは、防犯のTV番組やニュースをビデオに撮り貯めして目を通し、新聞や週刊誌の取材記事をスクランプして知識を蓄えながら、行政書士の資格で業務を受注していった経営者や顧客の自宅の防犯相談と設備設計・設置で実地の研鑽を積んでいます。

今回は本来のテーマから外れるかも知れませんが、それらの業務に関連して会員の皆様にお願いがあって寄稿させて頂きました。

実は、認知症の高齢者の対応です。認知症の初期症状では、少なからず物盗られ妄想が発生します。多くの場合に、自分の家族や出入りする近隣の者に疑いの目を向け、他にも外部からの侵入盗を疑ったりします。結局は自分自身で箪笥の奥にしまいこんだのに、全ての金融機関で通帳やカードの盗難届を出し、口座を止めたり、電話帳をめくっては頻繁に鍵屋さんに電話して玄関や裏口の鍵を交換して貰うことが起りがちなのです。

そこで、鍵屋さんの「困った営業姿勢」が目に付くようになります。

古いお宅のガラス防犯をセットで行わずに、鍵だけを特定の専門業者の方に依頼して、短期間にどんどん取り替えている事例が少なからず発生しています。専門業者にとってはある意味で美味しいお得意さんですが、そこでは商道徳上実に困った行為が頻発しています。

こういう対応をされる方は、証拠を残すことを嫌いますので、大体が、領収書を発行していません。仮に発効していても3万円を超えた場合の印紙は当然貼って無くて、しかも発行者の押印も無く、実にデタラメな領収書の管理が目立つのです。

一年間もしくは、もっと短期間に3～4回も同じ家に呼ばれていれば、その依頼者がどこかおかしい位は分かっていそうなものです。

私は、そういう困った認知症のお年寄りを支援する成年後見の業務を行っていますので、最近ブームになっている地デジTVを契機とした家電製品の押し売りをしている「街の電気屋さん」と共に、悪質な鍵屋さんへ刑事告訴をしたり、民事賠償を求めるなどを弁護士にお願いしています。

幸いにも、今まで防犯設備士の資格を持つ方は居ませんでしたが、お年寄りの認知症状態につけ込んで、嫌らしい商売をする事例が他にもいくらもあるのです。

このような扱いに困るお年寄りを鴨にするような悪質な営業行為が頻発すれば、何処かでマスコミを通して注意喚起をする啓蒙活動も興さねばなりません。どうか防犯設備士の仲間の皆様には、似たような事例に遭遇した場合には、決して一人だけで依頼人たるお年寄りと対峙せずに、後で自分が困らないような配慮を

防犯設備士コーナー

して頂きたいのです。

誌面の都合上、対応策は簡単に済ませますが、似たような案件があった場合には、放りっぱなしにせず地域の社会福祉協議会や該当地域の市町村区役所の福祉課に一報して頂きたいのです。今後に激増する地域の認知症の方を見守るネット・ワークの一員として、皆様が矜持と高い意識を持って頂きたいものとお願いする次第です。

所 属： 一般社団法人埼玉県防犯設備士協会

専務理事兼事務局長 鈴木智士

連絡先： 行政書士鈴木智士事務所 行政書士 鈴木智士

埼玉県北足立郡伊奈町小室4769番地18

TEL048-723-0290 FAX048-723-0390

【遺言・相続】 <http://www.suzukijimusy.jp/>

【特殊法人・許認可】 <http://suzuki-jimusyo.biz/>

